

コミュニティ だより

徳島市
徳島市コミュニティ協議会
徳島市幸町2丁目5番地
TEL(088)621-5510
FAX(088)621-5511

2021年を迎えて



徳島市長 内藤佐和子

明けましておめでとうございます。
新しい年を穏やかに迎えることと謹んでお慶び申し上げます。

皆さま方には、日頃よりコミュニティ活動に深いご理解と多大なるご尽力をいただき、心よりお礼を申し上げます。
昨年の四月十八日の市長就任以来、新型コロナウイルス感染症対策を最重要課題として、新型コロナウイルスの感染拡大の防止とともに日常生活

活や経済活動に大きな影響を受けている市民、事業者の皆さまを支援するための取り組みを国や県と連携しながら、実施してまいりました。

皆さま方におかれましては、施設の一時利用の休止など、感染拡大の防止を図るため、格別のご理解とご協力をいただきましたことに深く感謝を申しあげます。
未だ感染収束が見通せない厳しい状況ではございますが、市民の皆さまが安心して暮らすことができるよう、引き続き、「新しい生活様式」の実践による感染防止対策と社会経済活動の両立に全力で取り組んでまいります。

さらに、県市協調による県都にふさわしい芸術文化の創造拠点となる新ホール整備と県青少年センターの機能移転による中心市街地活性化の一体的な推進をはじめ、本市の良さを次世代へと継承し、人を育み、新たな価値や文化、産業を創造するなど、徳島が持続的に発展できるまちづく

新年の挨拶

徳島市コミュニティ連絡協議会



会長 島田 和男

りを着実に進めてまいりますので、皆さま方におかれましては、一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。
結びに、この一年が皆さま方にとりまして実り多い幸せな年となりますよう心からお祈り申しあげまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

り、二部屋を一部屋の値段で貸し出ししたりして各コミュニティ協議会も大変苦慮をしているのが現状であります。またコミュニティ活動も大きな制約を受け、どのようにするか試行錯誤している状況であります。
このようなときだからこそ各コミュニティ協議会が互いに知恵を出し合い情報を交換し「まちづくり」が一步でも前進するように頑張ります。

新年あけましておめでとうございます。

皆さまの皆さまにとりましては、健やかな新年をお迎えのことと推察いたします。
昨年を振り返ってみますと、なんとといっても中国の武漢で発生し、あつという間に世界に広がった「コロナウイルス

感染症」でしょう。十二月四日現在、世界で約六千四百万人が感染し、死者は約五十万人に達しています。人的被害だけでなく経済的被害も莫大な額になると推察されます。困るのは、感染が何度も繰り返し発生することにありますし、いまだワクチンも特効薬も完成していません。
私たちの管理運営しているコミュニティセンターも昨年四～五月には、全館休館となり、その後も感染を防止するため多人数の会合は中止した

本年は、世界的な一大イベントであるオリンピックも開催され、またワクチンや特効薬も完成する可能性もあります。人類は有史以来ウイルスとの戦いだといわれますが、有害なウイルスが蔓延するたびに生き延びてきました。安全・安心なまちづくりのため明るい未来を信じて、みんなで助け合い協力し合って頑張ります。

最後になりましたが徳島市コミュニティ連絡協議会の皆さまにとり、より良い年になるようご祈念申しあげ新年のご挨拶といたします。

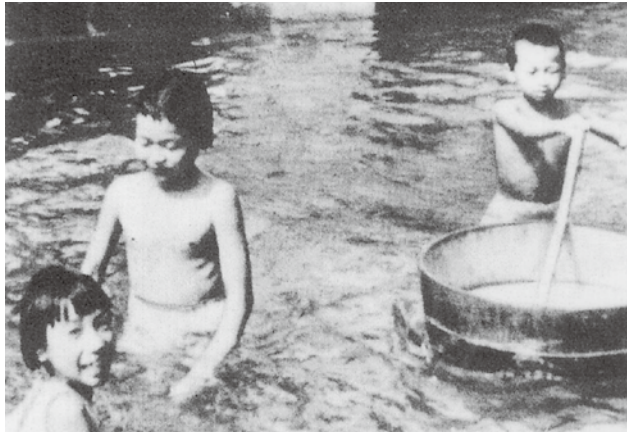
県指定文化財史跡 袋井用水

袋井用水を美しくする会
副会長 荻野 純子

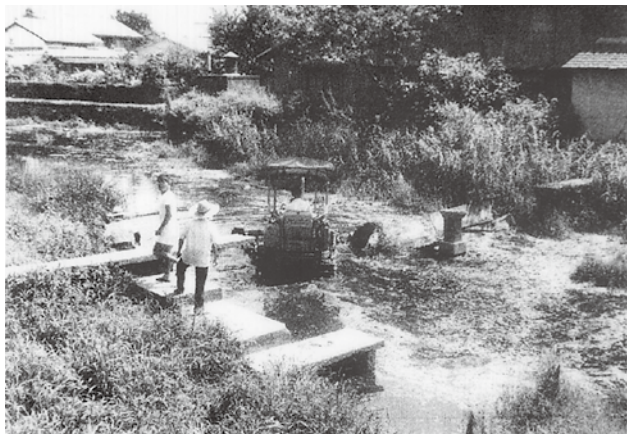
徳島市鮎喰町二丁目に所在し、国道一九二号線の袋井橋下を流れる袋井用水は、昭和二十八年七月二十一日に徳島県指定文化財史跡とされました。史跡公園に建立された楠藤翁頌徳の碑には「夜ハ田畝ノ間ニ臥シテ静カニ伏流ノ音ヲ尋ネ書ハ低地ヲ試掘シテ百万水脈ヲ求メ」と書かれ、当時の島田村の干害を見かねて、楠藤翁が水脈を発見するまでの苦難の様子がうかがえます。一六九九年ようやく用水が完成し、その後、翁の子や孫が志を継いで用水の拡張

工事を続行し、網目のように用水路を通して島田、庄、蔵本の各村に豊富な水を供給し日照りがあっても三村の稲穂は豊かに稔り、収穫が増えて農民の暮らしは楽になったとあります。

この用水は二百五十年の間、一日八万トンの水が三百ヘクタールの水田を潤し、明治の末から工業用水としても利用され、農業や産業にも欠かすことができないものでありました。私たちが子どもの頃は、袋井橋の上から飛び込んだり、美しい水の中で泳ぎ



昭和28年頃の袋井用水



昭和48年 袋井用水の浚渫作業始まる



袋井用水沿いの満開の桜



令和2年1月30日 植樹祭（袋井公園にて）

まわったり、夜には蛍が乱舞する中、子どもたちのしゃぐ声が響きました。ところが、昭和四十八年頃には湧水はなくなり、各家庭から流れ込む雑排水の為にヘドロが溜まり汚い用水となっていました。

これではいけないと、私たちは袋井を美しくする会を設立し、船筏を確保し、用水に繁茂した藻をすくい取り、石垣に長くはびこった草を、船を漕ぎながら鎌で刈る清掃活動を行っています。

また昭和三十四年四

月、先の天皇后両陛下のご成婚記念に加茂名地区有志が公園に桜を植樹しました。その桜が六十年経った今も、徳島市内で唯一の水辺の桜として毎年咲き誇り、桜吹雪や花筏として楽しませてくれます。この桜を絶やすことのないよう令和二年一月に令和の桜植樹祭を皆さま方と盛大に開催致しました。そして十年後、二十年後も皆さま方が袋井の桜の下で楽しく語り、心を癒してくださいませばうれしいと思います。
(加茂名まちづくり協議会)

勝占音頭で地域を元気に

勝占中部コミュニティ協議会

会長 竹内 鋭治

毎年開かれる徳島市コミュニティまつりでは、各地区から地域色豊かな出し物が披露されます。日本舞踊、コーラス、合唱、創作ダンス、小唄に音頭などがあり、まだ新米で公民館長も兼ねる私にとっても、各地区からの出し物は



感動や新しい発見などがあり、創作意欲をかき立てられる場にもなります。
最近では、ある地区での「〇音頭」に心を動かされました。出演者が楽しんで歌い踊る姿を見たとき、思わず周囲に「うちも『勝占音頭』作ってみたいへんで…」と言ってしまいました。私の乗りもあって参加していた我が地区のみんなからも即答で「会長、作ろうだ！」との声。前後も



考えず思うまま言ったもの心では一瞬、えらいこと言っしてもたと思いましたが、後に引くわけにもいかず少し不安はよぎりながらも「どんなかなるだろ?」と開き直る気持ちとなったのです。そして、一昨年末には音頭づくりをスタートさせました。
しかし、肝心の詩や曲作りをできる方は果たしているのかという不安もありましたが、見渡せば周りには人材は

いるものです。地域の歴史、文化や方言に詳しく作詞もできる方、音楽講座の先生、そして日本舞踊のお師匠さん、よしこのや民謡が得意な方など、みんなの力をお借りし、昨年四月には地域の遺産、文化、歴史、方言を盛り込んだ親しみやすく楽しい「勝占音頭」が出来上がりました。

完成までは原案をみんなで検討し、修正過程を経て子どもからお年寄りまで親しみやすく簡単に歌って踊れる音頭へと変更しました。太鼓、締め太鼓、笛などの演奏者に歌、踊りの方々も加わり月二回十五名

程で練習をしています。コロナ禍の中、練習中止の期間もありましたが、昨年十月から感染に注意して再開。楽器演奏の各パート、歌、踊りの感覚も戻り、完成度も上がってきました。
今後さらさら練習を重ね、敬老会や各種イベントなどを通じて地域全体に広め、地域住民を元気にする「勝占音頭」になればと考えています。



入田地区のコミュニティ活動

入田町まちづくり協議会

新年度がスタートしましたが、緊急事態宣言が政府から発出され、徹底した外出規制や休業を余儀なくされました。

そして、コミュニティセンターを休館という、これまでの経験したことがない事態に陥ったことは、各協議会同様



コミュニティまつり 模擬店

に困惑したと思います。当初から、総会や行事が中止となり、また貸館もすべてなくなり、非常に寂しい静かなコミュニティセンターでありました。

現在、サークルや地域団体など、少しずつ活動しつつありますが、多くの方々が在



コミュニティまつり 餅つき

宅を余儀なくされている今の状況では、コミュニティ活動はしばらく停滞することになりそうです。

昨年度は、敬老会やコミセン祭り、慰霊祭、防災研修や各種講座など様々な活動を実施しております。入田コミセン祭りでは、模擬店の販売や



コミュニティまつり ショベルカー乗車体験

ゲームコーナー、バザーなどが一斉に行われるなど賑わい、新コーナーでは、ハロウィンメイクやショベルカーの乗車体験など、子どもたちに大人気でした。

また、ついた餅を来場者に振る舞うなど大好評でした。これからも、普段関わりのない様々な世代が協力できる行事を実施し、人と人の絆を大切にした地域の活性化につなげていきたいと考えています。

本年度では、七月に初のリモートによる、「川の安全講習会」を実施し、多くの方の参加があり好評でありました。また、十一月には、町内の健康ウォーキングを、密を避けコロナウイルスの感染防止に配慮のうえ、お楽しみいただこう実施いたしました。

入田町も人口減少と過疎化の進行に伴い、様々な地域問題が顕在化し、地域課題が多く発生しています。地域のつながりが希薄化し、課題解決



川の安全講習会

の担い手不足のなか、コミュニティの活性化が持続できるよう、協議会としても努力していかねばならないと考えています。

次のコミュニティだよりが発行される頃には、新型コロナウイルスの感染拡大が収束していることを祈ります。



八万地域の取り組み

「八万 笑顔☺とどけ隊」

八万中央コミュニティ推進協議会

会長 福永佐知子

八万地域は、数年前まで田園地帯が広がる緑豊かな町でした。しかし、今は田畑が宅地化され、一戸建てやマンションが増え、コミセンから見える景色も様変わりしてき

ました。また、八万地区の人口は増加傾向で、高齢化率もだんだん高くなってきています。徳島市は、平成二十九年



町民運動会での福笑

地域で自分らしい生活を続けられるように」と『地域支え合いのまちづくり推進事業』を実施しています。八万地域においても平成三十年

度より、八万地区協議会として本事業に取り組みました。八万地区協議会では、月一回の勉強会を実施し「地域の課題」「目指す地域像」など協議を重ね、愛称を「八万 笑顔☺とどけ隊」としました。また、十年後の八万地区の町のビジョンを「人と人のつながりがつく

る！みんなが輝き、楽しみながら、安心して住める八万地区」として活動していくことになりました。活動の第一弾として、「八万 笑顔☺とどけ隊」の取り組みを町民運動会のプログラムに載せ、地域の人たちに周知を図りました。そして、高齢者と子どもたちが協力し合

い、みんなが笑顔になる競技（福笑）を運動会で実施し、各町内会の競技者や応援している人たちの元気な笑顔を見ることができました。

第二弾として、「笑顔の輪を広げよう あいさつ運動」の標語のもと、のぼり旗を作り、町内各場所に立てることになりました。まず高齢者と協議会と一緒に、子どもたちの登下校時に笑顔のあいさつ

を届けようとしたとき、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、「八万 笑顔☺とどけ隊」の活動が休止状態になってしまいました。一日も早く、コロナ禍が終

息し、八万地域の皆さま方と一緒に笑顔のあいさつを届けたいと考えています。



のぼり旗

老人会の活動と

フレイル予防

竜王友愛クラブ 会長 河野 正敬

北井上地区老人会連合会が昨年九月二十五日の北井上コミュニティ協議会臨時総会において、入会が認められたのを機会に、連合会の活性化を図りたいと考えています。

北井上地区には、老人クラブがふたつしかなく、連合会の活動は残念ながら十分とはいえません。単位クラブが増えると連合会としての活動も活発になると思いますが、単



いいきいき百歳体操 (約2年前の写真)

位クラブを増やすことは難しいと思います。

北井上地区では、「いいきいき百歳体操」を公民館と竜王団地集会所で行っていますが、これに参加している人は両方合わせるとおよそ四十人になります。皆さん熱心に参加してくれていますので、この人たちに単位クラブにこだわることなく直接連合会に入会してくれるよう働きかけているところです。

人付き合いがめんどくさいと思っている人も多いと思いますが、老人クラブに加入し

活動することによって、社会とのつながりができ、フレイル予防に効果があると考えています。

『フレイル』とは、加齢に伴い心身の活力(筋力、認知機能、社会とのつながり)が低下した状態を意味する言葉で、「健康」と「要介護」の中間の時期です。

竜王友愛クラブは、いいきいき百歳体操の他、春・秋の健康ウォーキング、日帰りの温泉旅行と懇親会、遊歩道の清掃奉仕などを行っています。

北井上地区老人会連合会と



令和2年10月7日 神宮入江川沿遊歩道清掃活動

しては、友人、知人誘い合っ
て大勢の人に加入していただき、竜王友愛クラブと同じような活動や、徳島市老人クラブ連合会の事業、活動にも積極的に参加して、北井上地区のお年寄りが楽しく暮らせるようお手伝いをしていきたいと考えています。

(北井上地区コミュニティ協議会)

コロナ禍での活動について

東富田コミュニティ協議会

令和二年三月頃から新型コロナウイルスの感染拡大により、イベントそして各行事の中止が相次ぐなかで緊急事態宣言が出され、学校が休校となり、コミュニティセンターの貸館の自粛やそれに伴い地域の会合や総会も中止となりました。その時期を経て、新しい生活様式を進めるため、徳島市よりガイドラインが示されました。

昨年九月二十一日の敬老の日、そのガイドラインに沿って感染防止対策をし、敬老会を行いました。例年とは異なり、式典は行わず、記念品の配布のみとさせていただき、無事何事もなく終えることができました。

ただ、そのガイドラインでは、休館等の明確な指示はなく、ガイドラインに沿って各協議会の判断に任せるようになっており各館の対応がバラバラになっていたり、公民館への指示とコミュニティ協議会への指示に相違があるなど、徳島市の対応にも統一性

がございませんでした。そのような状況で、地域住民の方から他のコミュニティセンターでは貸館が始まっているのに、なぜ東富田は貸館を行わないのかなど問い合わせがあり、説明をしてもご理解をいただけなかったことが多くございました。また、感染者が発生したときの対応に関しても、ほとんど確立されていないように思います。このような状況では、今後のコミュニティ活動、イベントや各行事等再開してよいかの判断が難しく悩むところです。



敬老会での記念品配布の様子

町内会活動を元気に

川内南コミュニティ協議会

会長 坂東 敏夫

川内南コミュニティ協議会 ― 結成された比較的新しい協議

は、川内町全体のうち、川内南小学校区に属する区域で活動しています。地区には阿波十郎兵衛屋敷があり、休日には県内外から多くの観光客が訪れます。本協議会は平成十八年に



阿波十郎兵衛屋敷

会で、会を構成している十七の町内会は、川内町全域を対象とする「川内まちづくり協議会」と川内南小学校区を対象とする「川内南コミュニティ協議会」の両方に組織されるという異例の構成になっています。

平成十五年、川内南地区にコミュニティセンターを建設することを目標として「川内南コミュニティセンター設置推進協議会」が発足しました。それが本会の前身で、異例の構成となった理由です。

推進協議会が当時の小池市長に陳情した結果、川内町内に川内北地区と川内南地区にそれぞれコミュニティセンターを建設するという約束を得ることができました。また建設予定地の選定等、実現に向けた作業も進んでいました。しかしその後、市の単独予算では難しいことなどの理由で、平成十七年からは実現が遠のいた状況が続き、今日に至っています。話は変わりますが、本年度

から私は一町内会長としても活動することになりました。私の町内会では神社境内の整備、コロナ禍での祭りの開催、災害時の安全確保、空き家問題等々、いくつかの課題に直面しています。他の町内会でも役員の後継者不足など様々な問題を抱えていることでしょう。

最近、町内会長として活動するようになって考えるようになったことがあります。それは、コミュニティ協議会を構成する各町内会が定期的な意見交換できる場がほしいということ。もしあれば、各町内会が直面している問題を出し合い、互いの知恵や経験を共有することができ、町内会活動を元気にすることができると思ったからです。

会長に就任してまだ二年目、できることから少しずつ始め、本協議会の目的である「安全で潤いのある地域社会づくり」に向けて努力したいと思う今日この頃です。

編集後記

新年明けましておめでとうございます。今年こそコロナウイルスが収束してオリンピックができることを期待しております。

徳島市長からは「新しい生活様式」の実践による感染防止対策と社会経済活動の両立に取り組むこと、島田会長からはコロナウイルスの収束が見えない中「まちづくり」が一步でも前進するよう各コミュニティの取り組みを頑張りましょうと挨拶がありました。

袋井用水の今・昔の様子や保存に向けての取り組みなど。「勝占音頭」ができるまでの皆さんのチームワークの様子。コロナの感染予防の中、新しい取り組みで町の活性化の様子。「地域支え合いのまちづくり」を推進の様子。老人会が活発に活動している様子。各地区はコロナ禍の中、地域の理解と協力をお願いして活動再開の模索をしております。令和三年が皆さまにとって良い年になりますよう心からお祈りいたします。

(大川良文 記)